

サルビア

第23号

平成29年10月10日発行

岐阜市民病院 代表電話 (058) 251-1101

地域連携部 電話 (058) 253-0890

FAX (058) 255-0504

renkei@gmhosp.gifu.gifu.jp



日本医療機能評価機構
認定第 GB339 号

理念 心にひびく医療の実践

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療を行います。
1. 安全で信頼されるチーム医療を行います。
1. 地域の医療機関と連携し、患者さん中心の継続した医療を行います。
1. 地域の中核病院として、最新かつ高度な医療を提供できるよう努めます。
1. 職員が生き生きと働くことができる環境づくりに努めます。
1. 病院の理念を理解し、専門性を持った人材を育成します。



ごあいさつ

副院長
太田 宗一郎

岐阜市民病院は、県の地域医療構想において、岐阜大学医学部附属病院と連携して、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担うこととなります。地域の方々が安心して暮らせるよう、24時間体制で高度急性期医療を提供していくために、高度な手術の提供、先進的な医療の提供、地域連携の推進、救急及び重症患者管理部門の充実、医療安全対策の充実を柱としています。

具体的には、地域がん診療連携拠点病院として、昨年よりPET-CTによる迅速な診断からIMRT（強度変調放射線治療）等の放射線治療、外来化学療法センターによる化学療法など、様々な治療を提供できる体制が整っています。また、重症患者診療体制の充実のためにHCU（ハイケアユニット）を昨年から既存のICUとともに稼働させています。さらに、高度で質の高い、癌手術を提供するため、最新の内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチXi」による手術をこの9月に開始しました。今

まで以上に体への負担が少ない手術が可能となりました。

日本では少子高齢化が進み、当院においても、入院患者さんのうち約6割が65歳以上であり、そのうち75歳以上の高齢の方が占める割合はなんと約6割です。高齢になると、身体機能の低下や心血管疾患・呼吸器疾患・糖尿病などの併存症を有することが多いため、治療には細心の注意を払わねばなりません。さらに、今後ますます増えると予想される認知症に対応するために県から基幹型認知症疾患医療センターとして指定を受けました。

当院では、身体機能に合わせて検査や手術法を選択し、きめの細かい治療に心がけており、患者さんに無理のない医療を提供しています。この8月には日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。これは、病院が患者本位の医療を適切に安全に提供しているかどうかを、外部の評価機構に調査してもらうものです。これを機会に、患者さんへの対応や医療安全・感染対策を基本とした診療・運営のあり方を各部門で見直し、さらなる改善を図りました。受審結果は、来年の1月まで待たなくては行けませんが、審査直後の講評では概ねよい評価を頂いております。

私たちは地域医療の確保が使命であり、地域のニーズのある限り職員一丸となって努力して参りたいと思います。これからも地域の皆様、診療所の先生方、医師会の先生方のご協力（地域医療連携）を頂きながら皆様と進んでまいりたいと思います。どうぞご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

新規開設部門のご紹介

- ◆ 認知症疾患医療センター
センター長 犬塚 貴
- ◆ 肝・胆・膵センター
センター長 長田 真二
- ◆ 手術支援ロボット「ダヴィンチXi」導入のご案内

認知症疾患医療センター



認知症疾患医療センター長
犬塚 貴

当院は岐阜県より基幹型認知症疾患医療センターの指定を受け、神経内科医師2名(犬塚、里見)、臨床心理技術者2名、認知症看護認定看護師1名、精神保健福祉士1名、社会福祉士1名などを中心とした多職種協働体制で対応しております。

認知症は単にもの忘れだけでなく、環境の変化や体の不調によって混乱に陥り、周囲との適切な関わりが難しくなることなど、様々な生活障害が生じることがあります。そのためかかりつけ医と専門医療機関、さらに介護福祉関連の機関、行政との連携が必要です。岐阜県では5つの医療圏で地域型認知症疾患医療センターがそれぞれ指定され、岐阜医療圏では、岐阜病院と黒野病院が指定を受けております。この地域型センターが認知症を専門とする医療機関として中心となり、かかりつけ医、総合病院、地域包括支援センター等と連携し、認知症の方への医療や生活支援を行う仕組みが整備されつつあります。基幹型センターに指定されました当院には、こうした仕組みへのさらなる支援を行う役割が期待されていると認識しています。

具体的には、

1) BPSD(暴言・暴力・幻覚・妄想・せん妄・昼夜逆転・不潔行為・抑うつ・閉じこもりなど)のある認知症患者さんの身体合併症の急性期対応を行うこと：当院は急性期病院として、年間約5,000人の救急搬送患者を受け入れておりますが、せん妄などの症状を示される認知症の方も多くみられます(65才以上の15%が認知症という時代です)。そのため、多職種による「認知症ケアチーム」を組織し、病棟ラウンドを通じて、認知症が認められる患者さんに対して病棟のスタッフと共にサポートを行い、当該患者さんの認知症進行の防止と、病院全体の認知症対応力を向上させているところです。

2) 認知症の鑑別診断と、かかりつけ医へ診断結果と治療に関する情報提供を行うこと：火・水・木曜日の午後、「もの忘れ外来」を実施しています。受診には予約と紹介状が必要です。FAXにて地域連携部へ

申し込みをしてください(図1、2参照)。診察には患者さんの生活を知るご家族などの同行をお願いしています。また、鑑別診断には、血液検査、神経学的検査、神経心理検査、MRI・脳血流シンチグラムなどの画像検査、髄液検査等を実施するため、約3回の通院が必要となります。診断後の認知症の治療は、逆紹介によりかかりつけ医のもとで行うことを原則としています。なお、精神疾患(統合失調症、うつ病や、人格および行動の障害)の既往のある方や治療中の患者さんが、加齢により認知症を併発してきたような場合や、BPSDが非常に強度の場合は、精神科の専門医がいる地域型センター(黒野病院、岐阜病院)の受診をお勧めしております。

図1

「もの忘れ外来」受診の流れ

※基本的には3回の通院となります

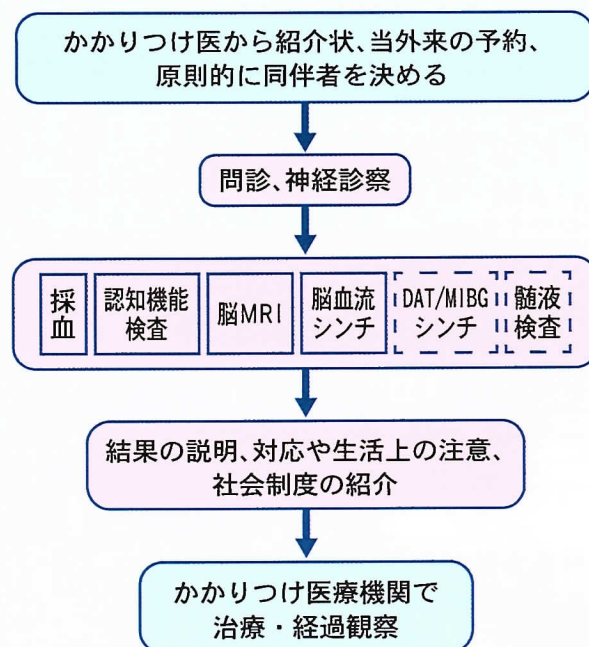


図2

『もの忘れ外来』のご案内

診 察 日	火・水・木
診 察 時 間	午後のみ
診 察 室	内科外来6診
受診には予約が必要です。 かかりつけ医の紹介状をお持ちください。	

原則的には、普段の生活をよく知っている方に同伴していただきます

3) 認知症専門の相談員による、患者さんとご家族の不安や悩みの相談(図3参照)を受け、適切な支援が受けられるように地域の医療機関や福祉施設と連携をとり調整すること。

4) 岐阜県の医療関係者や介護福祉関係者等の認知症に関する知識や技術、体験を共有し、認知症対応力の向上を図るため研修を行うこと。

5) 市民に向け認知症に関する情報発信をすること。

6) 認知症に関する調査と研究を行うこと。

こうした活動を通じて、当センターは国の「新オレンジプラン」に則り、認知症の患者さんが地域で安心して生活ができるように支援して参ります。

図3

相談電話	058-251-5871(直通)
受付時間	9:00~15:00(平日)
精神保健福祉士	認知症認定看護師が対応致します



認知症ケアチームメンバー

地域連携部からのお知らせ

各科診察予約・各種画像検査・上部内視鏡等の検査予約を承っております。

PET-CT検査に関しては、お申し込み日から、できる限り近いお日にちの予約を取らせていただいております。是非、ご利用ください。

詳細につきましては、地域連携部にお問い合わせください。または岐阜市民病院ホームページでご確認いただけます。



お問い合わせ先:058-253-0890

肝・胆・膵センター



肝・胆・膵センター長
長田 真二

平成29年4月より、「肝胆膵センター」が開設されました。胆膵系の向井強消化器内視鏡部長、肝系の林秀樹がん診療支援部長らを含む当該領域専門である内科医師の強力なバックアップをもとに、佐々木義之肝・胆・膵外科部長とともに、診断から処置および治療までを一貫して担い、岐阜医療圏のみならず東海地区でのメッカを目指し日々鋭意努力しております。よろしくお願いたします。

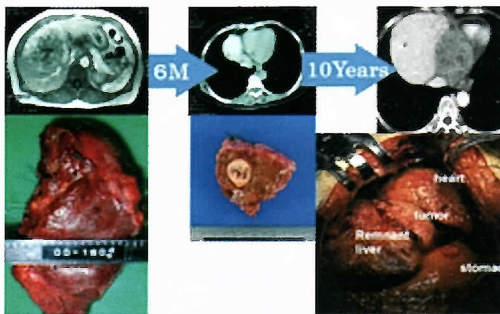
さて我が国では、国民の約2人に1人が何らかのがんに罹患し、さらに3人に1人はがんで死亡しているのが現状であります。その総合的な治療内容としては、近年の新規抗がん剤の開発・発展により、根治が困難であるとされてきた固形癌、特に消化器癌においても、治療成績が著しく改善してきております。しかしながら、この30年で8倍に増えたとされる一方で、その罹患率と死亡率がほぼ同等である胆膵癌や、肝炎ウイルスの啓蒙・駆逐により死亡数の上昇が制御されたとはいえ依然として高頻度に発症しうる肝癌など、治療に難渋し医療進歩の恩恵を甘受しきれていないのが、肝胆膵領域であるといえます。この部位における癌は、残念ながらいかなる抗癌剤に対する感受性も低く、解剖学的特性から早期発見が困難であるのみならず切除にあたっては高度の技能が必須で、さらに術後合併症が重篤であることが、難治性としてその治療ハードルを著しくあげている所以とされております。

この陰惨な情勢に対抗するべく当センターでは、肝癌に対しては、高い技術的レベルを誇る凝固治療は本邦でも広く評価され続けてきた実績を持ち、外科的には系統的な切除を定型化し、安全でスピーディを中心概念として身体的負担の軽減に努め、過大侵襲となりうる内容にも積極的に取り組みます(図1、2参照)。また胆膵癌に対しては、きめ細やかかつ大胆な内視鏡技術を駆使して確実な診断をもたらし、さらに近年外科系学会などにて注目されてきた切除に至るアプローチの一新に関わる持論を積極的に早期導入することで過不足のない摘出範囲の特定(図3参照)や、合併症軽減を目指した新しい

手技・再建法の提案、そしてまた理論的で一貫性のある周術期管理の徹底など、いずれもスタイリッシュで斬新な施策を進めております。

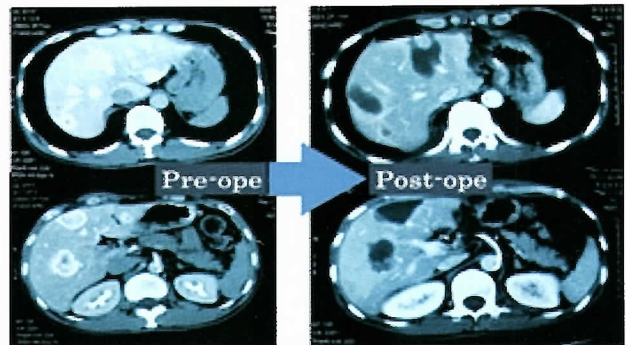
また症例の集約化による経験値の維持と、集積した豊富なデータから得られる信頼性の高い情報を国の内外を問わず発信してゆくことで、さらなる改善・発展を目指すことを常とします。内科的な知恵・理論と外科系の技術・経験を両輪として、この医療圏の方々の診療に貢献したいと考えております。一方同過程において、若手医師の教育と専門医の育成のみならず、メディカルスタッフとの意思疎通を図ることでチーム医療の充実も目標とし、先進的かつ高品質なシステムの確立とその拡張を目指したいと考えております。具体的な詳細はいつでもお問い合わせください。

図1: 肝細胞がん症例



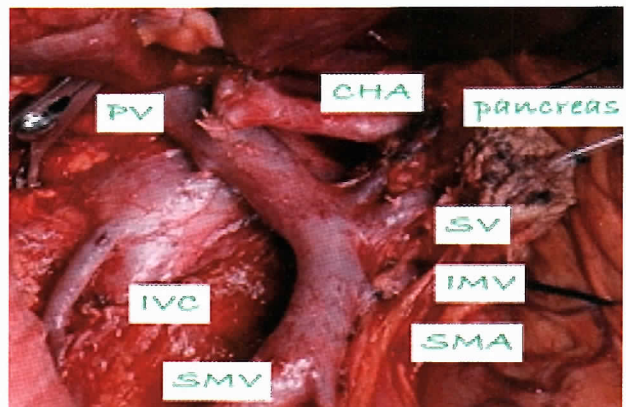
巨大肝細胞がんに対し拡大右葉切除術後早期の内側区域再発巣を摘出。10年間無再発であったが残肝（外側区域）脇に再発あり開胸開腹にて再切除。

図2: 大腸癌多発転移性肝がん症例



12個の腫瘍を全て摘出後に化学療法。

図3: 脾頭十二指腸切除術・摘出後
領域リンパ節廓清を含む過不足のない切除



SMA: 上腸間膜動脈、SMV: 上腸間膜静脈、IMV: 下腸間膜静脈、SV: 脾静脈、IVC: 下大静脈、CHA: 総肝動脈、PV: 門脈

手術支援ロボット「ダヴィンチXi」導入のご案内



泌尿器科内視鏡部長
玉木 正義

当院では、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けています。このたび、平成29年7月にがん治療の質をさらに高める目的で最新機種の手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入しました。

「ダヴィンチ」は1990年代に米国で開発され、世界中で導入が進んでいる手術支援ロボットです。ロ

ボットといっても機械が自動的に手術を行うわけではなく、医師がロボットを遠隔操作して手術を行います。患者さんの腹部に5-10mmの孔を数カ所あけ、そこよりアームに装着した内視鏡や手術器具を挿入します。医師は操縦席に座り、高倍率・高画質の3D画像をみて手元のコントローラーからアームに装着した内視鏡や手術器具（鉗子など）を遠隔操作し、手術を施行します。

このような「ダヴィンチ」を使用した手術は、低侵襲手術と言われている腹腔鏡手術の欠点を補います。「ダヴィンチ」手術は、患部の3D画像を見ながら遠隔操作でアームを動かし、さらに鉗子は、人間の手と同様の可動域にて手術を行うことができます。こ

このため、腹腔鏡手術の苦手な縫合操作を、容易にでき、腹腔鏡手術より繊細緻密な手術ができます。

当院ではこの「ダヴィンチ」の最新機種である、Xiを岐阜県内では最初に導入しました。最新機種であるXiは、それ以前のSやSiに比べて、図のような特徴があり、それにより手術時間がより短縮され、患者さんにより低侵襲な手術ができるようになりました。

現在「ダヴィンチ」で行われている手術は、前立腺癌に対する前立腺全摘術、腎癌に対する腎部分切除術、胃癌の胃切除術、子宮頸がんに対する広範子宮全摘術、中咽頭癌、下咽頭癌、喉頭癌に対する咽喉頭切除術などがあります。このうち、現在健康保険が適応できるのは、前立腺癌に対する前立腺全摘術、腎癌に対する腎部分切除術です。それ以外の手術は、現在

は、高度先進医療や自費治療になります。当院では、9月より前立腺癌に対する前立腺全摘術より施行し、実績を積んだうえで腎癌に対する腎部分切除術を開始する予定です。

前立腺癌に対するダヴィンチの手術は、頭部を低くした姿勢で手術を行うため、緑内障、脳動脈瘤、重度の心疾患の方は手術を受けられない場合があります。手術適応のある患者さんは、泌尿器科にご紹介いただければ、適応があるか判断したいと思います。

以上のように、がん治療のより低侵襲化をはかり、地域がん診療連携拠点病院として発展していきたいと思っておりますので今後の変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



岐阜市民病院が導入した
第4世代モデルのダヴィンチXiとそれ以前のモデルとの比較

岐阜市民病院診療科別週間予定表 (平成29年10月)

内科 (内線 2200・2220)
Table with columns for days (月, 火, 水, 木, 金) and rows for various internal medicine specialties like 第2内科, 神経内科, 総合内科, 第1内科.

肝胆膵センター
初診 小本曾(英)・宇野 西垣/佐々木 西垣/長田 向井/奥野 林/市川

外科 (内線 2300)
Table with columns for days and rows for 1診, 2診, 3診, 初診, 4診.

乳腺外科 (内線 2310) 外来受付 11:00まで(火曜日のみ10:00まで)
Table with columns for days and rows for 1診, 2診.

整形外科 (内線 2500)
Table with columns for days and rows for 1診, 2診, 3診, 4診.

小児科 (内線 2600)
Table with columns for days and rows for 1診, 2診, 初診, 再診.

産婦人科 (内線 2700)
Table with columns for days and rows for 午前 (2, 4, 7).

眼科 (内線 2800)
Table with columns for days and rows for 午前 (1, 2, 3).

耳鼻咽喉科・頭頸部外科(内線 2900)
Table with columns for days and rows for 午前 (1, 2, 3, 5).

皮膚科 (内線 3000) 外来受付 11:00(月・木)は10:30まで
Table with columns for days and rows for 午前 (1, 2, 3).

泌尿器科 (内線 3100)
Table with columns for days and rows for 1診, 2診, 3診.

呼吸器・腫瘍内科 (内線 3200)
Table with columns for days and rows for 2診, 3診, 専門外来.

胸部・心臓血管外科(内線 3200)
Table with columns for days and rows for 1診, 3診.

精神科 (内線 3400・3405)
Table with columns for days and rows for 1診, 2診, 3診, 外来初診.

脳神経外科 (内線 2400)
Table with columns for days and rows for 午前 (1診(初診), 2診).

歯科・口腔外科 (内線 3300) 外来受付 11:00まで(紹介状有りの場合16:00まで可)
Table with columns for days and rows for 初診, 再診.

画像診断科 (内線 4100)
Table with columns for days and rows for 外来 (午前, 午後).

放射線治療科 (内線 4125)
Table with columns for days and rows for 外来 (午前, 午後).

お問い合わせ先・FAX番号
地域連携部 電話番号 058-253-0890
FAX 058-255-0504
休日・夜間の救急受診の場合
直接、当直医師に電話で依頼し、診療情報提供書を患者様にお渡し頂くかFAXして下さい。
救急診療部 代表 058-251-1101 FAX 058-252-6637

FAX予約 受付時間
平日 8:30~19:15
土曜日 9:00~13:00 日祝日を除く